

No. 309

全 仏

6/60



ハワイ浄土宗別院

浄土宗のハワイ別院は、昭和7年にパンチボール近くのホノルル市マキキ街に移転新築され、現在、經典等を翻訳する仏教研修センター設立を計画中である。また、ハワイ全島では15ヶ寺あり、その中のコア浄土院は、本年11月に新本堂落慶が予定されている。

(写真提供・浄土宗)

全仏理事會ひらく

事業報告、決算など承認



5月16日、芝パークホテルで開かれた全仏理事会

全日本仏教会の理事会は、去る五月十六日午前十一時から、芝パークホテルで開催された。
阿部理事長の三婦依文唱和、矢萩事務総長並びに阿部理事長挨拶につづいて、議長に阿部理事長、議事録署名委員に鱈

井上国際文化局長上程。田代国際部長から説明。事務局原案を承認。
議案第四号「へ本会の目的・事業・構成等を改革するための委員会」規程(案)の承認を求める件」
野田総務局長上程。川島庶務部長から

淵正浩、来馬規雄の両師を選んで議事を開始した。

議案第一号「昭和五十九年度事業報告の承認を求める件」
野田総務局長上程。川島庶務部長から説明。事務局原案を承認。

議案第二号「昭和五十九年度歳入歳出決算の承認を求める件」
野口事務次長上程。剛山財務部長から説明。白川謙敬監事が監査報告を行い事務局原案を承認。

議案第三号「ルンビニ復興日本仏教徒委員会の規約変更並びに予算の一部修正の承認を求める件」

①「暴力団の行う組葬等の排除について」警察庁よりの要請について
②梵人会脱退について
③靖国懇委員・中村元副会長との懇談について
④同和推進のための研究機関設置について
⑤ハワイ日米仏教徒交流大会について
⑥事務局各部報告

担当局長部長から報告が行われ、また、報告事項④については、鷺山諦住・同和委員会委員長から背景説明が行われた。尚、「昭和五十九年度全日本仏教会歳入歳出決算書」は四頁に掲載しました。また臨時寄付金については、収入額金六一八〇〇〇円、支出額金四六〇四三二〇円となり、差引額金一五七五六八〇円は、昭和五十九年度本会計雑収入へ繰入れられました。ここに御報告し、各位の御協力に厚く御礼申し上げます。

杜多組織部長から説明。事務局原案を承認。
中村組織局長上程。

説明。事務局原案を承認。
議案第五号「仏教会未結成の県における市仏加盟の承認を求める件」

総務局―庶務部

59年度事業報告

- 4・3 黄檗宗開山祥忌参列
- 4・3 桜井大乗師本葬参列
- 9 高野山御遠忌法要参列
- 9 総持寺貫首本山葬参列
- 15 西山禅林寺派管長晋山式参列
- 15 観桜会出席
- 18 会長、副会長懇談会
- 19 智山派御遠忌法要参列
- 21 豊山派御遠忌法要参列
- 23 成田山御遠忌法要参列
- 30 理事会
- 30 別所弘因師本葬参列
- 29 文化庁宗務課との懇談会
- 20 高田派管長本葬参列
- 20 理事会
- 26 包括宗教学者研究協議会
- 8 常務理事会

寺院用具

浅草通り五鳳会加盟店

株式会社 決田商店

東京都台東区寿2-10-9 (地下鉄田原町駅前)

電話 代表 (841) 4965

昭和59年度 財団法人全日本仏教会歳入歳出決算書

歳入 予算額 金84,378,000円 決算額 金83,505,398円
 歳出 予算額 金84,378,000円 決算額 金80,429,367円
 歳入歳出決算剰余金 金 3,076,031円

歳入の部

科		目	予 算 額	収 入 済 額	対 子 算	
款	項	目			収 入 超 過 額	収 入 未 済 額
1. 負担金			78,478,000 ^円	75,356,200 ^円	0 ^円	3,121,800 ^円
	1. 各宗派負担金		69,268,000	67,436,200	0	1,831,800
	2. 各団体負担金		9,210,000	7,920,000	0	1,290,000
2. 寄附金			1,000,000	800,000	0	200,000
	1. 寄附金		1,000,000	800,000	0	200,000
3. 未納徴収金			1,000,000	1,917,000	917,000	0
4. 基金果実			900,000	861,000	0	39,000
5. 雑収入			1,000,000	3,646,933	2,646,933	0
6. 繰越金			2,000,000	924,265	0	1,075,735
歳 入 計			84,378,000	83,505,398		872,602

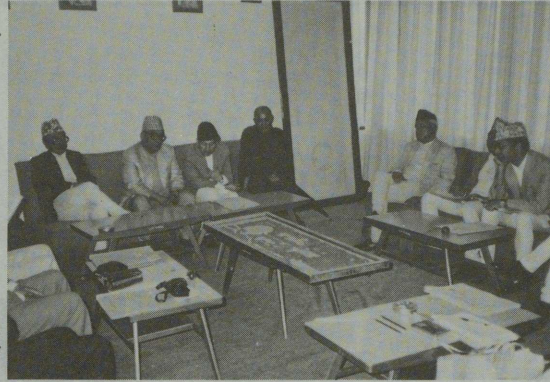
歳出の部

科		目	予 算 額	支 出 済 額	○増 △減 流 用 額	予 算 残 額	付 記
款	項	目					
1. 事務総局費			60,924,000 ^円	60,243,567 ^円	0 ^円	680,433 ^円	
	1. 人件費		43,024,000	42,458,377		565,623	
		1. 職員俸給	17,094,000	16,931,167		162,833	
		2. 諸給	21,930,000	21,799,440		130,560	
		3. 厚生費	3,200,000	2,927,770		272,230	
		4. 退職積立金	800,000	800,000		0	
	2. 事務費		9,100,000	8,998,120	0	101,880	
		1. 借館借室費	3,100,000	3,550,000	○ 450,000	0	第4目、5目、6目より流用
		2. 通信費	1,800,000	1,744,880		55,120	
		3. 消耗品	350,000	338,456		11,544	
		4. 光熱費	2,000,000	1,899,812	△ 100,188	0	第1目へ流用
		5. 備品費	600,000	327,600	△ 272,400	0	"
		6. 印刷費	900,000	794,326	△ 77,412	28,262	"
		7. 諸雑費	350,000	343,046		6,954	
	3. 旅費		2,300,000	2,333,060	○ 33,060	0	第5項より流用
	4. 関西事務局費		2,000,000	2,000,000		0	
	5. 渉外費		4,500,000	4,454,010	△ 33,060	12,930	第3項へ流用
2. 総務局費			7,500,000	7,107,425		392,575	
	1. 会議費		3,000,000	2,772,554		227,446	
		1. 理事会費	600,000	561,210		38,790	
		2. 評議員会費	200,000	155,960		44,040	
		3. 各種委員会費	400,000	338,300		61,700	
		4. 諸会議費	1,800,000	1,717,084		82,916	
	2. 共通事項処弁費		2,600,000	2,546,376		53,624	
	3. 時局対策費		1,500,000	1,464,750		35,250	
	4. 調査研究費		400,000	323,745		76,255	
3. 組織局費			6,200,000	5,855,320		344,680	
	1. 組織強化費		3,700,000	3,217,280	△ 138,040	344,680	
		1. 組織強化費	1,200,000	1,035,740	△ 138,040	26,220	第2項へ流用
		2. 国内仏教会会議費	2,500,000	2,181,540		318,460	
	2. 同和推進費		2,500,000	2,638,040	○ 138,040	0	第1項第1目より流用
4. 国際文化局費			7,600,000	7,138,235		461,765	
	1. 国際運動費		2,300,000	1,881,193		418,807	
		1. WFB関係費	600,000	580,840		19,160	
		2. 国際仏教交流費	700,000	439,160		260,840	
		3. 渉外費	1,000,000	861,193		138,807	
	2. 文化会議費		1,100,000	1,082,525		17,475	
		1. 文化会議費	800,000	782,525		17,475	
		2. 紀要作成費	300,000	300,000		0	
	3. 教化諸費		200,000	200,000		0	
	4. 機関紙発行費		4,000,000	3,974,517		25,483	
5. 雑費			154,000	84,820		69,180	
6. 子備費			2,000,000	0		2,000,000	
歳 出 計			84,378,000	80,429,367		3,948,633	

WFB

ルンビニー特別委初会合

田代国際部長らが出席



WFBとルンビニープロジェクトの技術スタッフの懇談会

第一回ルンビニー特別委員会が去る五月七日より十日まで、タイのバンコクとネパールのカトマンズにて開催され、当会より田代国際部長と小峰主事の二名が参加した。当委員会は本年三月に開催されたWFB執行委員会にて設立が決定したもので、構成メンバーは、日本、インド、ネパール、スリランカ、タイ、アメリカ、マレーシアの七ヶ国の各WFBセンターの代表よりなっている。

まず五月九日に全メンバーがルンビニーの現地視察を行い、以下の点について説明を受け確認してきた。

- ①すでに工事が開始されているのはハイスクール(マレーシアによる移転作業)、巡拝者宿泊施設(スリランカ)。
- ②僧院地区において各国が建設を開始する前にネパール側による地質等の調査が必要である。
- ③本年九月にパキスタン、スリランカ、バングラデッシュ、インドの考古学者が集まり、ネパール側と共に考古学調査についての会議を行う。

ルンビニー視察を終え、翌十日、カトマンズにおいてルンビニー開発委員長ロクダグルシャン氏と田代・小峰の両名が、①聖なる園の考古学調査について、日本から派遣する調査隊はネパール側と十分話し合った上で調査を行う、マヤ堂周辺の造園のデザイン等を日本に任せてもよい、②僧院の建設についてもすぐにおすすめしてもらいたい、また、その予算は予め多めに見積った方がよい、③五月末に交通労働大臣と共に訪日し、駐日大使同席の上で全仏側と何らかの調印をしたい、④近々ルンビニー開発のための新しい委員会が発足する、以上四点について話し合った。

同日午後二時より、ルンビニー開発委員会事務局において、WFBメンバーと

開発委員会との話し合いが行われた。その結果今後の方針として、①約十一ヶ国のメンバーによるルンビニー国際委員会をつくる、②(ロクダグルシャン氏との会談でも確認されたが)新たにネパールにおいて王室関係者を委員長とする委員会を発足させ、主に資金の運用、管理、政策面を行わせる。メンバーは国王の任命による、③世界各国へのアピールがまだ足りないため、今後、文書、出版物等による情報の提供をより促進する、以上三項目について決定した。

「平和祈願大法要」の 大導師に藤井全仏会長 ＝日米仏教徒交流大会＝

ハワイ日本
人官約移民百
年祭記念・日
米仏教徒交流
大会開催に当
り、二回の実
行委員会を開
いて当日のス
ケジュール等
を検討し、次
のように決定
した。

六月十五日
の「平和祈願

大法要(於パンチボール)の大導師に藤井實應・全仏会長、十七日の「記念法要並びに式典」(於シェラトンホテル)の大導師に藤井会長、法話に勝又俊教・全仏副会長、全仏代表挨拶に阿部慶昭・全仏理事長にそれぞれお願いすることになった。

育ててみませんか!! 菩提樹と蓮を……

菩提樹(印度ブッタガヤ産直輸入品)……………¥10,000より(鉢付)

蓮(チャワンバス通称姫蓮)……………¥7,000より(鉢付)

上記の品二点を同時予約注文の場合 特別価格 ¥15,000より

お申込、お問合せは下記のいずれかの所へ御一報下さい!

東京新宿 西武商事株園芸営業所 ☎<03>232-8787

〒160 東京都新宿区歌舞伎町1丁目30番1号

名古屋 資梅金商店 ☎<052>241-0901(代)

〒460 名古屋市中区大須三丁目39番33号



全日仏同和委員会では、委員会として協議の上決定していかねばならない分野と、惹起している差別問題を解決するための全日仏としての、方向を統一的に加盟教団ぐるみで取り組もうと設置されたのであるが、仏教各宗派の教義と基本的にかかわる点から問題をひき起こしている課題がある。

すでに「旃陀羅」解釈をめぐって問題の提起を受けた時点で、全日仏としての研究機関の設置を当委員会は申し入れて来たところである。そうした中で研究委員会の設置も本年度から位置づけされることになった。

それぞれの加盟教団にあっても、教義・教学の上から明確にしていかなねばならない課題もかかえているものの、全日仏としての統一の見解が出せる研究機関であってほしい。

さて、今日の緊急課題として、去年機関誌「全仏」六月号において高野山真言宗教光龍委員は、「仏前勤行次第」の中にある業観の誤解として、身体障害者に対する差別問題であることをとりあげられ「これこそ差別の論理である」と表明されている。

同和推進のために

差別問題と「業」「因果」の課題

蓮池 瑞旭 (全仏同和委員 浄土宗)

特に仏教の「業」解釈については、さまざまな解釈がつけ加えられ、いつの年代ごろからか、世間的にも広く流布されて来た実事は否定できない。

今日では世間的に「業」が一人歩きして、「前世の業によるむくい」とか、「業病にとりつかれた」等と語られ、被差別部落での出生そのものまで、宿業説をおしつけた差別事件は各地で数

もされているであろう『御詠歌経本』の中には、前述の差別的論理で詠まれている『御詠歌』そのものが存在している。

二項対立の形式で理解を助け、世間的には仏教教義そのものである如く流布されている。これは当委員会において提起された問題であるが、『諸国霊場御詠歌萬題』

果として現世で受けているという論理展開がなされ、「因果の道理明らかに、佛に嘘はなきものぞ、たゞ一向に疑はず、南無阿彌陀と信ずべし」と結んでいる。

これを見ると、差別の助長ではなく差別を作り出し、固定化させていくものでもない。

ここに見る『因果和讃』は、一向専修の文語もみえ、称名を進めているものの阿弥陀仏信仰そのものではない、特定の宗派や特定の寺院が実践を進めた和讃でないのかもしれないが、今後の調査研究を通して、課題の解決に当らねばならない。

最後に筆者の現時点での偶感を述べるならば、第一に「業」「因果」についての統一の見解、第二にこの誤った理解を社会的に普遍化させた要因は何か、第三に歴史的背景とその歴史性について、第四に現実的対応をどうの様に進めるか、等の課題がのしかか

て来ている。

現実社会の人権にかかわる実相と照鑑し、全日仏という一つ土俵の上で討議し、仏教の根本的教義の上から問題解決に向けていくことが、真の取り組みといえるのであろう。

多くひきおこされてきたことも事実である。

まして差別から解放への立ちあがりまで、抑圧する思想的背景ともなつて社会化されている部分まである。

次に、全国各地に流布している宗派をこえた『御詠歌』なるものにもふれる必要がある。

仏具店や、各霊場寺院において販売

『諸国霊場御詠歌千題』、『西国霊場三十三所五百番詠歌及諸経要集』、『仏教各宗和讃壹千題』の四本には、(これ以外にもあるであろう) いずれも『因果和讃』として(前略)現在諸人の有さまは、皆これ過去の報なり、六根器量のよき人は、忍辱柔和の果報なり、(中略)啞聾となるものは、佛法誇た過とかや」として、すべて前世の悪因が悪

住職メモ帳

料理道

何かを通じて道を極めると、そこに人生万般にわたる哲学（人生観）が生まれる。華道、茶道、書道などいわゆるお稽古事に道がつくのはそのためだろう。つまり、修行することに意義があるから道なのだ。だから、これらの稽古事を花嫁修行という。ならば、料理道だってあってしかるべき

なのに、言葉として熟していない。では、料理道などないのかというと決してそうではない。湯木貞一さんの『吉兆味ばなし』はまさに料理道の極意だと思ふ。何はともあれ、文中から二三抜き書きして紹介しよう。

▼「味つけというのは、自分が、どうだ、うまくできたなあ、と思つたときはだめです。そんな気持があつては、うまく味つけはできません。不思議なことに、自分ではうまくいとも何ともわからない境地で作つたものは、みなおいしいと言ってくれます。こんなわけのわからんことをいっても、分つてもらえないかもしれませぬけれど、実際のところそうなのです。」

▼「その日は一日しかない。わが一生の大切な一日の夕食です。どうぞ心をくばってほしいものです。」

▼「よい料理屋というのは、まず掃除でしょう。料理人は、掃除が大切だという気持をもっていないといけません。お客さまは料理だけを食べに来られるのではなく、家もたべに来るのです。便所掃除、しつこい洗いからおぼえた料理だったら、ものごとの順序、けじめが体にたたき込まれていますから、いい仕事が出るようになるものです。」

▼「日本料理のなかで『熱い』という約束のあるものがいくつもあります。天ぷらもその一つです。まとめて揚げて別なところへ運んで行って食べると、どうしても冷めてしまいます。揚げたてをすぐ食べると、これが同じものかと疑うくらい味がちがいます。揚げながら食べる天ぷらには、どうしても揚げ役が必要です。家族そろつては食べられない。揚げ役がいるおかげでおいしさが生まれます。作る人は食べる人がよろこぶのを見てよろこぶ、ありがたいことです。」

▼「すき焼きのねぎの寸法で、いい店かわるい店かわかります。何の気もなしに切らないで、たべやすい寸法ということを考えて切る。それが庖丁加減というものです。」以上思いつくまま書き留めてみました。庖丁加減、味加減、いい加減であつてはならぬでしょう。自己に対して手加減は禁物です。

（文化専門委員・阿純孝）

良書紹介

『いま、生命を問う―変わる誕生と死―』

NHK取材班著

「あなたの精子買います」という米国の精子銀行など、科学技術の歯止めなき現状を、ドキュメント番組を見るように訴えてくる。その結果、倫理宗教に突きつけられた刃をどうさばるか。仏教の側にとつても緊急の問題が浮き彫りにされている本。

（日本放送出版協会・一三〇〇円）

『生命の最前線』

増永俊一著

本書は、科学と仏教の現代的関わりを論じ、生の最前線として脳、生命工学、生命操作、生命倫理と臓器移植、病いの最前線として延命、脳死、信仰治療、老の最前線としてボケ、定年、円熟、死の最前線として死学、ホスピス、安楽死などを取材したものである。現代という問題の中で仏教を問う貴重な試みである。

（春秋社・一三〇〇円）

『長らえしとき』

早瀬圭一著

高齢化社会になり、老後の問題を考える人が多くなっている時、この本は武蔵野方式（現金がなくても、住んでいるマンションや家屋、土地があれば、寝たきりになつても自宅で面倒をみてもらえる）を利用する老人たちとその世話をする人

たちの様子をノンフィクションで書いてあり、参考になると思う。

（文藝春秋・一一〇〇円）

『禅問答―55の知恵』

中野東禅著

禅問答は、人のいのちの真実をひき出そうという真剣な対論の記述であるが、必ずしも一般にいう対談の形式にはなっていない。そこに禅問答を把握する難しさがある。その禅問答を現代人が読んでわかるように、また生身のくらしに役立つ知恵を見出すことをめざして著者は大変な努力をほらつている。

（こう書房・九八〇円）

『落語風俗帳』

関山和夫著

古典落語の代表的な演目をそのルーツによつて宗派ごとに分類整理した書。例えば東都落語界では、四代目橋本から六代目三遊亭円生に伝わった「お血脈」など、一連の善光寺の縁起譚がまことに巧みに語られている点を指摘、善光寺と庶民の関係が落語を通じて明白になる所以を知ることができる。

（白水社・一六〇〇円）

文化専門委員（順不同・敬称略）

宝田正道、中野東禅、阿純孝、島田喜久子、寿山良知

推薦

初の全仏改革委員会

委員長に細川師

去る四月二十六日午後一時より、明照会館会議室において阿部理事長出席のもと、第一回「本会の目的・事業・構成等を改革するための委員会」略称「全仏改革委員会」が開催された。この委員会は真に時代に即応しうる態勢を全仏が確立するために、改革すべき問題点を洗い出し、改革案を理事長に提出することが目的である。既に昨年末「事務総局機構検討委員会」答申が理事長に提出されたが、改革委員会はこの答申をいっば叩き台にして進行することになる予定である。

本委員会の委員は細川祐葆（曹洞）、寺田義淳（本派）、能邨英士（大派）、伊東康雄（浄土）、豊田英世（日蓮）、橋爪良恒（高野山）、橋本玄進（妙心寺）、杉谷義純（天台）、小峰令丸（智山）、杉本亮一（豊山）、白川謙敬（東京都仏）、増田貞圓（大阪府仏）、山本杉（全日仏婦）、鎌原佑元（曹洞宗・学識経験者）、長谷川正浩（全仏顧問弁護士・学識経験者）の十五師で、宗派・都道府県仏教会・諸団体・学識経験者により構成されている。

第一回の委員会では、まず委員会規程が審議され議決されたが、五月十六日に開催された理事会において正式に承認された。ついで正副委員長には、委員長に細川祐葆、副委員長に小峰令丸の両師が選任された。

本委員会には、阿部理事長も積極的に出席する予定である。明年三月末までに

は答申が行われ、新しい全仏が誕生することになる。

哀 悼

伊東 修己師（全仏税務委員）
四月二十五日、七十七歳で遷化。

訂正 本誌五月号二頁の日宗連の理事、参議会の記事で「監事」とあるのを「参議」と訂正いたします。

事務局録事

5月

二日 ルンビニー総務・経理部会
六日 十二日 WFBルンビニー特別委員会

九日 法律相談室
十日 監査会

十一日 文化会議運営委員会
十四日 局内会議

十五日 ハワイ実行委員会
日宗連理事会

十六日 理事会
十七日 同和委員会

二十一日 全仏大会幹事会
二十二日 西本願寺落慶法要参列

天台真盛宗管長晋山式参列
法律相談室

二十三日 部落解放基本法中央実行委員会出席
二十四日 会出席

二十八日 藤井日達師本葬参列
I B E C 理事会・評議員会出席

三十日 栃木県仏理事会出席
三十一日 国税庁との会談

昭和六十年六月一日発行

発行人 矢 萩 信 顕

発行所

財団法人

全日本仏教会

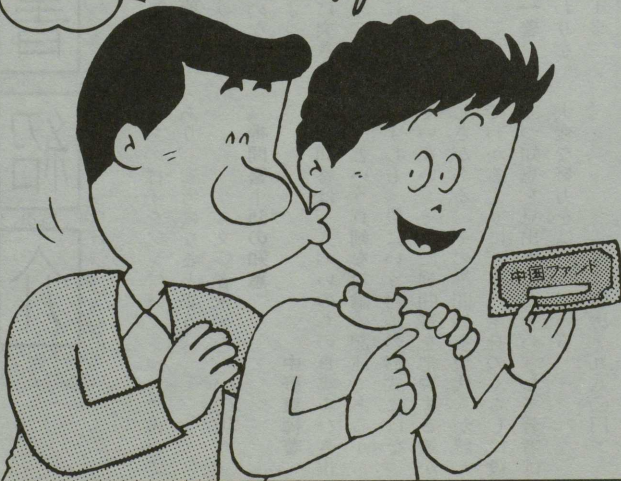
〒一〇五

東京都港区芝公園四一七―四
電話〇三（四三七）九二七五

ふたりの結論 チューコクファンド。

ステキな
奥ちゃま

チューコク



出し入れ自由で、ふえる、ふえる、

中期国債ファンド

公社債投資信託・追加型 設定・運用…山一投信委託

- 1ヵ月据置けば出し入れ自由
- ふえる手応えがちがう1ヵ月複利
- 優**適格、お1人300万円まで無税扱い
- お申込みは、10万円以上1万円単位

※ご出金の場合、前日にご連絡ください。
※お申込みの際は、受益証券説明書をご覧ください。

（預ける貯蓄から
ふやす貯蓄へ。）

山一証券

〒104 東京都中央区八重洲2の4の1
☎03(276)3181(代表)